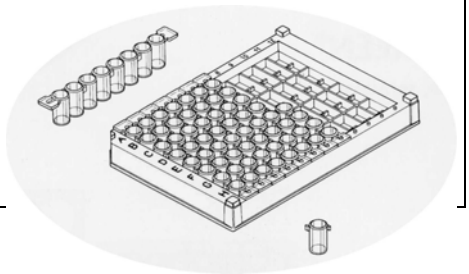
食品・飼料・環境検査キット ＜きっとセーフ＞ シリーズ

RIDA スクリーン FAST PSP SC（まひ性貝毒）

まひ性貝毒（サキシトキシン等）のスクリーニング検査

強力な神経毒であるサキシトキシンなどのまひ性貝毒を、ELISA（酵素免疫測定）法で迅速にスクリーニング検査あるいは定量検査します。マウスアッセイの利用を軽減するものとして注目されています。

	RIDA スクリーン（製造：r-Biopharm 社）
品名 コードNo. 価格 仕様 キット内容	**RIDA スクリーン FAST PSP（まひ性貝毒）（4613PF） 65,000 円** **48 ウェル（含むコントロール用ウェル）** 抗体固着マイクロプレート（48 ウェル）、標準液（0ppb）、酵素複合体液、サキシトキシン抗体液、基質発色液、反応停止液等 **★参照標準液がゼロ標準のみのタイプで、各濃度の吸光度値データ（%比率）がキットに添付されます。ゼロ標準の吸光度値（毎回測定）のみから検量線を作成できますので、使用ウェルを節約でき、時間手間も省けます。**
目的・用途	貝類からのサキシトキシン・ゴニオトキシン等のまひ性貝毒のスクリーニング検出・定量
原理と 検出限界	EIA（酵素免疫測定）法（二重抗体 競合法） 50ppb（試料中のサキシトキシン濃度）（キット自体の定量範囲は 2.5～40ppb）
交差反応	サキシトキシン 100%として ゴニオトキシンⅡ・Ⅲ＝70%、デカルバモイルサキシトキシン＝20%、ネオサキシトキシン＝12%
所要時間 保存条件	キット操作（インキュベーション 約 30 分）（前処理別途） 4～8℃、露光厳禁
前処理 **操作**	塩酸とホモジナイズ後、煮沸 5 分、冷却遠心分離、pH 調整後再度冷却遠心分離、希釈 ① 各ウェルに試料ないし標準液、希釈酵素複合体、抗体液を順次滴下し、振とう。 ② 室温で 15 分間インキュベーション、ウェル内の液を廃棄後、洗浄水で3回洗浄。 ③ 各ウェルに基質発色液を滴下し、振とう。 ⑤ 室温で 15 分間インキュベーション ⑥ 各ウェルに反応停止液を滴下して振とう。 ⑦ 吸光度（450nm 波長）を測定する。 標準液の吸光度から検量線をとり、試料の濃度を換算定量する。
その他必要 機器試薬	マイクロピペットおよび チップ（リピーターピペットがあればなお可）、洗浄ビン マイクロプレート（ストリップ）用フォトメーター（450nm） 前処理抽出用器具（ビーカー、メスシリンダー、 ろ過器具、pH 紙など）、蒸留水、塩酸



＊FAST PSP SC キット “ゼロ標準のみ“について

従来の ELISA キットでは、ゼロ標準とともに参照標準溶液が数段階の濃度で添付されています。これら各標準液をアッセイの都度、試料と同時に試験し、各吸光度値を測定、ゼロ標準の吸光度値に対する比率を縦軸にとり検量線を作成していました。（横軸には濃度対数）SC（Single Control）キットでは、あらかじめ PSP 濃度の標準液を測定した場合に得られる吸光度値の比率（ゼロ標準に対する）が既定のものとして品質保証書に開示されますので、検量線作成あるいは濃度換算のためには、ゼロ標準の吸光度だけを測定すればよいことになります。すなわち、試料とゼロ標準の吸光度値の比率から試料中の PSP 濃度を換算することが可能になります。
1 回のアッセイ時に必要なウェル数が減りますので、時間・手間・コストを軽減できますし、わずかでも毒性のある標準液を使用したくないといったニーズにお応えすることができます。反面、検量線を都度描くことによって得られる情報、たとえば回帰係数や 50%阻害濃度といった情報からその都度の妥当性検証はできません。キット操作に不慣れな場合や、未知マトリックス試料の場合などには、陽性コントロールや既知濃度添加試料を同時にアッセイされることなどもご検討ください。

本品は食品衛生・環境等に関わる自主検査用キットであり、臨床検査等診断に用いることはできません。 必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用・保管・廃棄等の方法には充分ご注意下さい。 なお、価格・仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。

アヅマックス株式会社 http://www.azmax.co.jp/ E-mail:sales@azmax.co.jp
ご注文 お問合せは 東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Fax 03-5543-0312